

【認知症対応型共同生活介護 用】

1. 第三者評価結果概要表

作成日：平成20年5月24日

【評価実施概要】

事業所番号	2874002278		
法人名	有限会社ほおずき		
事業所名	グループホームCHIAKIほおずき姫路高岡		
所在地	(〒670-0085) 兵庫県姫路市山吹1丁目3-25 電話 0792-99-5107		
評価機関名	特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所		
所在地	兵庫県神戸市長田区荻乃町2丁目2番14-703号		
訪問調査日	平成20年2月5日	評価確定日	平成20年5月24日

【情報提供票より】 [平成20年1月15日 事業所記入の同書面より要点を転記]

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年7月1日		
ユニット数	2ユニット (利用定員…計18人)		
職員数	13人	(常勤12人) (非常勤0人)	/ 常勤換算13.0人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 地上3階建て建物の2階～3階部分		
------	--------------------------------	--	--

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000円	その他の経費(月額)	23,000円	
敷金の有・無	有り (円) ・ 無し			
保証金の有・無 (入居一時金含む)	有り (300,000円) ・ 無し	(保証金有りの場合) 保証金償却の有・無	有り ・ 無し	
食材料費	朝食	150円	昼食	350円
	夕食	350円	おやつ	50円
	または、1日あたり			円

(4) 利用者の概要 (平成20年1月15日 現在)

利用者人数	計18名 … (男性0名) (女性18名)		
要介護1	7名	要介護2	5名
要介護3	5名	要介護4	1名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均86歳 … (最低76歳) (最高98歳)		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	網島会厚生病院	段歯科医院	岡本内科
---------	---------	-------	------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR「高岡」駅近郊の新興住宅地に在る。近隣にはショッピングセンターなど商店も多く、買物など日常生活に不便はない。管理者(施設長)自身が看護師であり、医療面においても、家族や職員の安心感大きい。訪問時に強く感じたのは、「ホームの明るい活気」である。この活気と、笑顔あふれる家庭の雰囲気は、施設テーマの「幸せを叶えるホームづくり」が実践されている結果であろう。家事の協働、職員の特技披露(ドジョウすくい・南京玉すだれ…など)、菜園での野菜作り、おやつ作り、作品づくりのほか、多くのイベントや行事の際の利用者の表情からもそれを感じる。毎年、年末には皆で新年を迎える準備を行ない、利用者が家族をホームに迎え、皆で元旦のお祝いをするなど、理念の浸透度が高いホームである。◎添付の資料写真も参照

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4) ①カロリー摂取量の把握について担当を決め、概ねその数値を把握することによって栄養バランスのとれた食事になった。②理美容利用支援については訪問理美容を中心に、美容師には利用者の好みを細かく伝えている。メイク・エステのボランティアも導入した。③運営推進会議を2か月に1回開催するようになり、近隣住民との交流機会が増えた。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4) 2か月前から全職員に自己評価の書面を配布し、それぞれ自己評価を行ない、その内容を管理者がまとめた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4, 5, 6) 運営推進会議は、利用者代表、家族、地域住民、自治会長、民生委員、通所介護利用者等で構成され、概ね2か月に1回開催されている(今後は、地域包括支援センターの職員も出席の予定)。運営推進会議の定期開催をきっかけに、自治会行事を一緒に行なうなど、地域住民との交流機会も増えており、ホームで「認知症サポーター養成研修」を行なう予定もある。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8) 家族がホームを訪れる機会は多く、意見や要望を出しやすい雰囲気ができている。要望反映の一例として、職員写真をホーム入り口に掲げたことにより、家族にとって、職員名と顔が「一致」し、安心感を与えることができた。「家族との連絡記録用紙」を作成し、話し合った内容を詳細に記録するようにしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) 地域自治会に入会し、自治会行事に参加している。地域住民ボランティア(メイク・紙芝居・和太鼓演奏・コンサート)の来訪も多く、地域との関わりは上手に進んでいる。地元の実習生を受け入れたことで、独居の地域高齢者の状況把握にも繋がった(地域社会への知識還元になった)。最近では、近隣住民からの介護に関する相談事も増えてきている。

◎運営に関する家族等の意見の反映
ホーム入口付近に職員写真を…



◎食事を楽しむことのできる支援
家事、シタケ栽培、おやつ作りを協働で…



◎居心地のよい共用空間づくり 入居者同士が語り合い…



◎チームでつくる利用者本位の介護計画
起床・就寝時のケアをまとめて…

起床時・就寝時のケアのポイント	
2F	
起床時のケア	就寝時のケア
二浦氏 起床時 起床後 起床後	起床時 起床後 起床後
三浦氏 起床時 起床後	起床時 起床後
四浦氏 起床時 起床後	起床時 起床後
五浦氏 起床時 起床後	起床時 起床後
六浦氏 起床時 起床後	起床時 起床後
七浦氏 起床時 起床後	起床時 起床後
八浦氏 起床時 起床後	起床時 起床後
九浦氏 起床時 起床後	起床時 起床後
十浦氏 起床時 起床後	起床時 起床後

◎役割、楽しみごと、気晴らしの支援 皆で作品作りも



◎健康面の支援





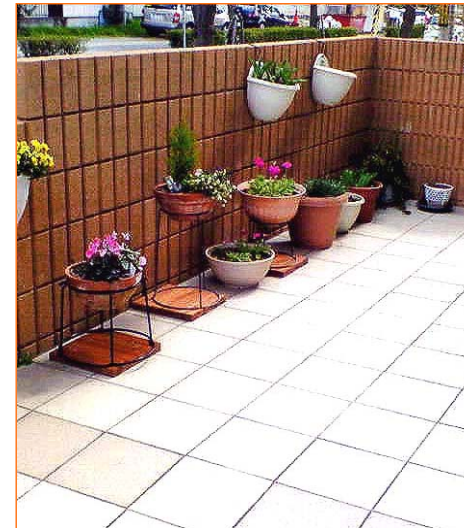
▲ホーム外観



▲玄関のウェルカムボード



▲川沿いの散歩道



▲玄関の飾り付け

2. 第三者評価結果票

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念を「えみがこぼれる家庭…それが私のほこりです」に置き、事業所テーマを「幸せを叶えるホームづくり」に設定し、地域住民の一員として、家庭的な環境の中で自由に暮らすことを支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者および職員は、利用者に障害等があっても個性を大切にし、尊厳を持って、その人らしい暮らしが継続できるように理念の実践に向け取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域自治会に入会した。老人クラブとの交流もある。夏にはホーム駐車場を地域住民に開放し、「ほろ酔いコンサート」「わいわいクッキング」「異文化交流」を行ったり、地元住民ボランティアによるメイク、紙芝居、和太鼓等が毎月行なわれるなど、地域住民との関わりも多い。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員会議で評価制度の意義を説明し、職員全員が自己評価を行なう事によって、資質の向上に繋がっている。また、前回評価の指摘事項については、徐々に改善を行なっている。評価結果ファイルは玄関に置き、誰もが自由に関覧でき、ホームページ上でも公開している。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
5	8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は、入居者代表、入居者家族、地域住民、自治会長、民生委員、デイサービス利用者等で構成され、概ね2か月に1回開催している。会議では、ホームの現況や行事などについて伝え、また、出席者の意見はホーム運営に活かされている。地域包括支援センターの職員にも会議に出席してもらえよう働きかけをし、その合意を得ている。運営推進会議を定期的開催するようにしたことで、地域行事への参加にもつながり、地域住民との交流機会も増えた。</p>		
6	9	<p>○市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>管理者は兵庫県認知症キャラバンメイト(サポーター養成研修講師)であり、今後は地域でも認知症サポーター養成講座を行なう予定。</p>	○	<p>近隣住民から介護相談を受ける機会も増えているので、「認知症サポーター養成講座」についても、できるだけ早期に開催してほしい。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ニュースとして毎月「高岡便り」を発行し、ホームの行事写真や予定とともに個別に利用者の様子を伝えている。家族のホーム訪問頻度多く、訪れた時にも日々の様子を伝えている。利用者別にアルバム作りもしている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会では意見や要望を出しやすい雰囲気作りがされている。職員と家族の会話は多い。職員写真をホーム入り口に掲げるようにしたことで、家族に安心感を与えることができた。「家族との連絡記録用紙」にも、家族等と話し合った内容が詳細に記録されている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の定着率は良い。勤務体制は職員意見を聴いた上で夕方以降の遅い時間帯に手厚くしている。職員不足にも臨機応変に対応している。</p>		


外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人としては、全体会議、新入社員研修、主任研修、施設長研修、エリア別勉強会等の段階層別の会議・研修等が豊富に提供されている。ホーム内では、研修委員会が中心になって研修(内部研修・外部研修参加)や勉強会が企画・開催されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市が主導でグループホームのネットワーク作りを目的とした連絡会が発足し参加をしている。年間3回の学習会や講習会が行なわれ、サービスの質向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならに馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居の制度はないが、「1日見学制度」を設けている。入居前には、本人や家族と話し合う機会を十分に設け、身体状況や生活環境、生活背景や生活の質の面、困っている事や不安な事などを聴き取り、「入居前のまとめ」シートに記録している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と利用者は、日々、喜怒哀楽をともにしながら、入居者は職員にとって人生の先輩であることを忘れず、行儀や習慣、料理などを中心に“学ぶ姿勢”で接し、支えあう関係作りをしている。家庭菜園での活動や大きなちぎり絵の作品作りなど、職員と利用者が協働している場面が多い。職員が利用者に調理の方法を教わる機会も度々ある。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの生活暦は「情報カード」にまとめられており、それらを基礎情報として、普段の生活の中から、各職員が一人ひとりの思いや希望、意向等の把握に努めている。ホームだけでは実現が難しいことについては家族の協力も得ることができるよう支援している。		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居前には家族等が情報カードに生活背景やバックグラウンドを記入し、入居後には職員が利用者のアセスメントをまとめ、これまで関わりのあったサービス事業者やケアマネジャー、医師等からの情報も盛り込みながら、利用者の希望を踏まえた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の入居者の様子は、個別ケース記録やバイタル表に記録されている。それらをもとに3~4ヵ月に1度、ケース会議を開催し、6ヵ月毎に介護計画を見直している。介護計画見直し時に家族等の同席は無く、計画作成後の報告になっている。	○	心身状態に大きな変化がなくとも、介護計画の見直しにあたっては、家族に同席していただくよう(家族と一緒に話し合っけてゆるよう)努めてもらいたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスを併設しており、職員や利用者の行き来がある。地域住民がボランティアとして定期的にホームを訪れたり、地域イベントに駐車場を開放したり、会議室を大正琴の練習場所として提供するなど、ホーム機能の有効な活用が見られる。訪問理美容も導入している。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、本人や家人の希望で決めており、利用者の3分の1は従来のかかりつけ医を受診している。入院や専門的な治療については、協力医を中心に本人の状態にあわせた適切な医療機関へ繋げる支援をしている。月に2回の協力医による訪問診療が行なわれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	数名の利用者については、本人・家族・かかりつけ医を交えて話し合いを持ち、事業所方針を説明し、方向性を共有している。全利用者について方針の共有には至っていない。重度になるにつれて、家族との話し合いの機会を多く持つようにしている。	○	事業所としての方針および方向性については、全利用者家族に対して文書等を用いて周知徹底されることが望ましい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者の個々の性格や行動パターンを把握し、その人に適した声かけや会話を行なっている。記録等の個人情報の取り扱いについては、別室で施錠できる書棚に保管するように徹底されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時には職員業務を優先せざるを得ないこともあるが、通常は、本人のプライドを損なわないよう、一人ひとりの生活リズムを尊重し、できるだけそれぞれのペースに合わせた“安全・ゆったり”の支援を行なっている。	○	業務書類の記載事項には重複項目や記号化できるものも見受けられるため、記載事項を一部簡素化するなどの取り組みをして、記録時間を短縮できる工夫をしてみてもどうか。

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の暮らしの中での買物・準備・食事作り・食事時の団欒・片付け等が生活の一部として定着している。家庭菜園では季節野菜やシイタケ栽培をしており、それらが食卓に並ぶことも利用者の楽しみのひとつでもある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望や体調を把握し、本人の希望する時間に入浴できるように支援している。頻度は少ないが、希望に応じて個浴ではなく、利用者同士で入浴することもある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事会や季節行事、遠足などの年間行事が毎月組み入れられており、昨秋行なったバス旅行(福知渓谷と砥峰高原)には家族を含めて計44名が参加した。高岡市民センターで行なわれる“ふれあい演芸会”に出席してカラオケを披露する利用者もいる。ボランティアとしてメイク・エステの専門家がホームを毎月訪れており、その効果として、利用者が自分で化粧をするようになるなどしている。	○	ボランティア活動として、大正琴演奏・紙芝居・歌・和太鼓演奏・活花などを積極的に導入しており、これらの多くの楽しみ事は是非継続してほしい。検討されている保育園児との交流は、是非実現してほしい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者のADL低下に伴って外出機会は減少しつつあるが、事業所前の中学校に花を見に行ったり、自治会長宅へ届け物に行くなど、近隣の散歩や買物を中心とした外出支援を行なっている。ユニット間や併設するデイサービスとの交流は日常的に行なっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が利用者各々の行動パターンを把握しており、玄関は人の出入りでチャイムが鳴るようにしている。日中の施錠は全くしていない。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回の避難訓練が企画・実施され、館内設備も定期的な点検が行なわれている。運営推進会議で案内することによって地域住民の協力が少しずつ得られてきている。緊急時マニュアルを整備し、年1回の応急手当・緊急時対応訓練も行なっている。	○	ヒヤリハット活動の書式を簡素化し、多くの事例が出てきている。今後もこの活動を継続し、ケアに活かしてほしい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量、排泄状況、入浴状況、バイタル等が1枚の記録用紙にまとめて記入されており、大変わかり易い。特に、体調を崩している利用者については約3時間毎に別紙に記録する方法をとっている。医師とも連携を取りながら、身体状態に応じて食べやすい形にしたり、また、その人の習慣や嗜好に応じた支援を行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周りや駐車場、ベランダには季節の花を植えている。庭の一部は家庭菜園になっており、利用者と職員が協働で世話をし、併設する通所介護の利用者との交流の場所にもなっている。ロビーやリビングには季節の花や観葉植物、写真等を飾り、あちらこちらにソファを置いたり、床の一部に畳を敷いて座ってくつろぐスペースを作るなど、居心地良く過ごせるように工夫している。お正月には、ホームを訪ねて来る家族もたくさんいる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に協力を頂き、ベッドやタンス、使い慣れた家具や調度品を持ちこみ、一緒に居室作りをしている。写真や思い出の品、以前作った作品、大切にしていた物など(大正琴、三味線、遺影や位牌なども)を自由に持ち込んでおり、本人にとって安心して過ごせる空間作りができています。		

※  は、重点項目。